

# 滋賀県病院協会報



発行所  
滋賀県病院協会  
一般社団法人  
大津市京町四丁目3-28  
(滋賀県厚生会館)  
TEL 077-525-7525  
http://sbk.co-site.jp/  
発行人 会長 金子隆昭

## 令和3年度「病院医療懇談会」開催される

一般社団法人滋賀県病院協会 理事(広報担当) 横田 徹  
(公益財団法人 豊郷病院長)

新型コロナウイルス感染症の第5波が猛威をふるっていた令和9月9日、滋賀県病院協会、滋賀県共催で令和3年度病院医療懇談会が開催され、1) 来年度の医療財政における予算に対する要望、2) 新型コロナウイルス対策の振り返りと今後の方向性について討議が行われた。

今回も滋賀県庁の大会議室をお借りし、県からは滋賀県健康医療福祉部の市川忠稔部長、角野文彦理事、大岡純浩次長、切手俊弘課長はじめ9名、病院協会からは金子隆昭会長、来見良誠副会長、若林直樹副会長はじめ44病院47名が参加した(Zoom参加は34名)。会議に先立ち金子隆昭会長、市川部長からごあいさつを賜わり、来見副会長の進行で討議に入った。

第一部：令和4年度県予期的な支援をお願いしたい。また後方支援病院への転院に際し、退院前のPCR陰性確認は現在では不要で退院許可基準と整合性を持った指導をお願いしたい。今後は災害時の対応も含めて地域医療構想を進めていただきたい。

1. 新型コロナウイルス感染症対策と地域医療構想について  
(金子会長) 新型コロナウイルス感染症対策には一年間の知見が蓄積し、ワクチンや治療薬の効果期待もあるが、病床確保に伴う病院経営悪化への支援策、医療人に対する風評被害対策を含めて長



病院協会 金子隆昭会長

風評被害対策を含めて長  
性を患者が入院できる病床  
を最大388床確保。令和3年度新型コロナウイルス感染症入院病床確保支援事業費補助金  
・現計予算額 31,431,518千円  
・既交付決定額 4,170,943千円  
(4~5月分:21病院)  
・交付済額 1,436,718千円(4月分:21病院)  
検査、診療が円滑に進むよう新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金を活用し支援を実施している。また後方支援病院の受け入れ条件については、入退院支援を行なう上で問題となっており、6月に意見交換会を行なって周知をはかっている。国において第8次医療計画に「新興感染症」の項目が新たに6事業目に追加されることが決ま

としても、臨床指導医の確保や資質向上を促進する必要があると認識している。滋賀県医師確保計画に基づき、医師確保や偏在解消が進むことそのものが、医師育成にも結び付くものであると認識しており、貴協会としてや偏在解消に向けて重点的に取り組む。具体的には滋賀医科大学地域枠の学生中心に総合医療に関心をもってもらう研修会を開催、キャリア形成プログラムとの検討も必要としている。

3) 看護職について  
(東看護部会長) 2025年までに滋賀県では18,934人(毎441名)の看護師が必要となる。一方、タスクシフトによる看護補助者が不足。看護職の確保定着および勤務環境改善をお願いしたい。①看護人材確保対策の充実 ②新卒看護職員の県内就職率向上を目標とした看護教育機関への協力要請 ③保育所・学童保育の充実。またWLBを考慮した人材育成への支援として①新人看護職員研修補助金の充実 ②専門看護師、認定看護師、特定行為研修への受講推進と資金援助の継続 ③特定行為研修修了者の活用推進の継続 ④認知症ケア研修への財政支援 ⑤認定看護管理者教育過程研修受講推進と資金援助を希望。

2. 地域医療を支える医療人材の確保と育成  
偏在対策について  
1) 医師確保・偏在対策について  
2) 研修医を含む医師育成について



会場の様子



市川部長、角野理事、大岡次長

3. 院内感染対策事業について  
(金子会長) 滋賀県病院協会ではこれまで県からの委託事業として、「感染制御ネットワーク」を組織し、院内感染対策と地域の感染制御を目的として①感染症等対策検討会の運営 ②専門家チームの派遣と巡回支援、特に集団発生の危険性がある施設に専門家チームを派遣し、指導と助言 ③相談窓口の設置 ④実態調査(薬剤耐性菌サーベイランス、抗菌薬使用状況)の分析 ⑤感染症と院内感染危機管理研修会の開催 ⑥感染症など予防普及の啓発、そして最

近では介護サービス事業者等感染対策推進事業の一環として、①介護サービスに関わる職員の教育指導にも努めてきた。昨年は滋賀県内でも新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響は大きく、複数の医療機関や介護施設でクラスターの発生が報告され、さまざまな医療体制の問題点が露呈した。COVID-19との闘いは今後も継続すると考えられ、今後も感染制御ネットワークの活動に財政面でのより一層の支援を期待する。(医療福祉推進課) 新型コロナウイルス感染症の発生以降、県内でも複数の医療機関で院内クラスターが発生している状況であり、これまでも感染制御ネットワークで実施されてきた、院内感染対策に係る助言・相談対応、巡回指導等の意義は非常に大きいと考えているため、必要予算確保を図ってきた。(次ページへ続く)







受賞おめでとうございます

(病院協会からの推薦者)

令和3年度救急医療功労者表彰

知事表彰受賞決定



済生会滋賀県病院 循環器内科主任部長兼救命救急センター副センター長 兼臨床研修センター長 倉田 博之氏



長浜赤十字病院 救急科部長兼救命救急センター長兼医療社会部長 中村 誠昌氏



地方独立行政法人 公立甲賀病院 副院長補佐兼外科系診療部長兼外科部長 消化器外科主任部長兼がん診療部長 池田 房夫氏

病院協会今後の行事予定

- 令和3年 令和3年度退院支援機能強化事業第10月1日(金) 2回検討委員会 (Web会議)
10月9日(土) 令和3年度感染管理・感染防止対策研修会 (Web会議)
10月20日(水) 第6回理事会 (Web会議)
10月27日(水) 令和3年度第1回医事研究会 (Web研修会)
11月18日(木) 第7回理事会
11月19日(金) 令和3年度(第18回)病院医療機能評価受審フォーラム開催 (Web研修会)
11月25日(木) 第3回看護部長部会委員会

感染制御ネットワークだより

県内唯一の感染症看護専門看護師としての役割

滋賀県立総合病院 感染管理室

感染症看護専門看護師 西田 和輝

現在日本看護協会の資格認定制度において、感染対策や感染症を専門とする領域として感染管理認定看護師と感染症看護専門看護師があります。認定者は90名(令和2年12月時点)と少なく、滋賀県内では私のみとなっています。感染症看護専門看護師が独自に求められる役割となります。専門看護師にも様々な領域がありますが、ハンセン病患者やその家族への差別や偏見があった歴史からわかるように、

病院の名称変更
(令和3年10月1日付) ※所在地、電話番号、FAX番号変更なし
開設主体: 社会医療法人 誠光会
医療機関名: (旧)社会医療法人 誠光会 草津総合病院
(新)社会医療法人 誠光会 淡海医療センター
病院長: 古家 大祐氏
所在地: 滋賀県草津市矢橋町1660
電話: 077-563-8866
FAX: 077-565-9313
許可病床数: 420床
一般420床(回復期 58床)

令和3年度 WEBセミナー 看護職員感染対策研修会開催
(オンデマンド形式の動画配信によるオンライン研修会)
一昨年より新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が世界中に拡大し、ワクチン接種が拡大しつつあるものの、新型コロナウイルス感染症の拡大状況をふまえ滋賀県内の看護職員の役割は更に重要となっており、そこで、基本的な感染対策の考え方に加え、新型コロナウイルス感染症予防や発生時の拡大防止対策等についての知識や対応を身につけ、実践できることを目的に標記研修会を開催されました。
目的: 看護職員の感染防止対策の知識・技術の向上
目標: 必要な知識・技術を修得し、自身が感染対策の実践モデルとなり感染防止対策が出来る
研修テーマ: 『COVID-19における感染対策』
動画配信に当たっては、当協会内の感染制御ネットワーク委員会委員の感染管理認定看護師の下記3名にお世話になり、第1回の配信は、県内58病院の看護職員を対象に9月10日~9月16日の1週間配信しました。初めてのオンデマンド形式の動画配信でしたが、参加者が当初の予定より多く、配信方法を見直してYouTubeでの配信にさせて頂きました。参加登録者は約480名、視聴回数は700回を越え、貴重な経験となりました。
第2回目として、県内のクリニックに勤務する感染対策を学びたい看護職員を対象とした動画が9月30日~10月6日の1週間配信されました。

- 10月29日(金) 令和3年度院長事務局長研修会 (Web研修会)
第1部「人権研修」
「医療者は、なぜLGBTQについて知る必要があるのか」
講師: NPO法人QWRIC 理事 桂木 祥子氏
第2部「医師の働き方改革への対応」
「待たなしの医師の働き方改革」院内でしておくべき3つの取り組み」
講師: ハイズ(株)代表取締役社長/慶應義塾大学 特任教授 妻 英洙氏
11月30日(火) 令和3年度医療安全対策研修会 (Web研修会)
第1部「医療安全対策研修」
第2部「医療安全窓口担当者研修」
令和3年度(第12回)研修会および若手医師のためのフォーラム開催
12月9日(木) 令和3年度(第12回)研修会および若手医師のためのフォーラム開催 (Web研修会)
12月13日(月) 令和3年度院内感染防止対策研修会 (Web研修会)
12月15日(水) 第8回理事会 (Web会議の予定)
令和4年
1月19日(水) 第9回理事会 (Web会議の予定)
1月20日(木) 令和3年度看護部長部会研修会 (Web研修会)

消毒液 alcohol
Illustration of a hand being washed with alcohol and a person in a lab coat.

Table with 2 columns: 内容 (Content) and 講師 (Instructor). Rows include: 「COVID-19の動向」(基礎知識、疫学) by 竹村 美和氏; 「COVID-19の感染対策」 by 木下 桂氏; 「個人防護具の着脱」「クラスター発生防止と発生時対応」 by 中村 寛子氏.

感染症と倫理的問題は常に隣り合わせにあります。患者に対して、感染拡大の防止という社会的な利益を保全するために、個人の移動の自由やプライバシーの保護などの諸権利を制限せざるを得ないところに問題が生じます。私が専門看護師を指すきっかけとなったのは、薬剤耐性菌が検出された患者が当たり前のように個室に隔離され、部屋から出ることを制限されるのに疑問を感じたからでした。病院ではルール化されているので、当然の事として疑問を感じない医療従事者も多いのではないのでしょうか。しかし、患者や家族が薬剤耐性菌について十分な説明を受けて理解した上で隔離されているのでしょうか。隔離すること自体が悪いわけではなく、よくわからないうちに、病棟のルールから、感染者や感染の疑いが生じた人を遠ざけようとする。もちろん、感染拡大を阻止するために必要な教育活動と合わせ、複雑な状況にある易

